

令和3年第2回北海道議会定例会 一般質問

開催年月日 令和3年(2021年)6月18日(金)

質問者 民主・道民連合 藤川 雅司 議員

答弁者 知 事 鈴木 直道

○藤川雅司議員

近年、社会問題として取り上げられるヤングケアラーは、学校に通いながら「家事や介護」「アルバイトによる家計支援」などを担っており、本人の時間が大きく左右されることで、学校に行けなくなることがあると聞いています。学校に行っても勉強に集中できず、友人とも話が合わないことから、孤立感に苛まれ、意欲が低下するなど、将来の可能性を奪うことになりかねません。

そこで、ヤングケアラーへの認識を伺うとともに、早期の段階で若者のサインに気づき、サポートしていくために、状況把握が必要であります。迅速な支援体制の構築が必要だと思いますが、知事並びに教育長の見解を伺います。

○鈴木直道知事

ヤングケアラーについてであります。少子高齢化や核家族化の進展など様々な要因により、年齢や成長の度合いに見合わない過度な責任や負担を負うヤングケアラーについては、潜在化しやすく、本人の育ちや学びにも影響を及ぼしておりますことから、福祉、介護、医療、教育等の関係機関が連携を密にして、こうした子どもたちを早期に発見し、必要な支援に結びつけていくことが何よりも重要であります。

先般公表された、ヤングケアラーの支援に向けた国のプロジェクトチームの報告書では、「早期発見と現状把握」、「必要な支援策の推進」、「社会的認知度の向上」が今後取り組むべき施策の柱として明記されておりますことから、道としては、道教委と連携して、現状把握のための早急な調査実施に着手するとともに、国の動向を把握しつつ、学識経験者や支援団体、当事者の方々などのご意見も伺いながら、ヤングケアラーに対する支援方策の検討を進めてまいります。